

KAS

# 風の谷

びゅう

## VIEW

社会福祉法人 風の谷  
 相模原市中央区田名7236-3  
 発行責任者 政野 光廣  
 042-760-1033  
<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>  
 e-mail: [ykoubou@pastel.ocn.ne.jp](mailto:ykoubou@pastel.ocn.ne.jp)



実りの秋・芸術の秋・スポーツの秋

### 【2010年 秋号】

◇巻頭文	P 2	◇自閉症支援センター便り	P 3
◇特集：研修報告	P 4、P 5	◇短期入所「赤い屋根」	P 6
◇決算報告	P 7	◇後援会	P 8

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会 代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲 910-1 コーポ野村 6-109

毎月15日発行 購読料1部 50円

## 「就労7年目の息子」

やまびこ工場の働き掛けにより、息子が一般就労した会社は横浜線の鴨居駅から徒歩20分位の所にある、製薬会社の特例子会社です。早いもので今年七年目にはいりました。入社当時の親の不安、ドキドキ感は今も同じです。一年、一年の契約であり、親としては長く勤めて欲しいと考えたと不安はそれ以上です。通勤時、勤務先で、間違いがなければ、周りの人に迷惑を掛けていないか、帰宅後の独り言を聞くと「会社で何かあったのでは」どうしても悪い方に考えてしまいます。特例子会社と言っても、民間企業と同じですから、そこには会社の方針や規則があります。そこから外れた事をやれば当然罰則があると考えたと、自然と息子に対して要求を高く求めてしまい、つい強く当たってしまいます。

そんなことがありつつも、勤め先では年間いろいろな催しが開かれ、仲間達のコミュニケーションを図ってくれているので、息子にとって良い結果になっているのではと考えています。先日恒例の「ファミリーデー」が開かれました。毎年妻が参加していましたが、今年は初めて私が行くことになりました。本社の担当部署より業務内容及び会社の現状報告、そしてこのパッケージセンターの役割の説明がありました。その話の中で、「病院、お医者さん、薬局などへの営業が持参する販売用ツールを迅速、丁寧に作ってもらいとても感謝しています。」との話があり、自分の事のように嬉しく感じました。さてこの催しには前もって案内があり、当人の良い経験を、二分間話してくださいとのことでした。それは会社方針に、良いところを見つけ褒めるよう、そのような考えに基づいてのようです。いざ妻と話しあったのですが、「良い経験、良いところ」はて・・・？ 「しつこい」「声が大きくうるさい」「同じ事を何回も言う」「声をかけないと動かない」等、気になることはすぐ出てくるのですが。発表した内容は、短所と思っていたことは一理あり、少し見方を変えるとそれは長所であること。一例を出しながら、優しいこと、彼なりに相手を気遣っていること、関係を保とうとしていることを話しました。どの親も会社に入り息子さん、娘さんが成長したことを喜び、長く働ける事を希望していることを発表で感じました。

最近特例子会社が増えているとの話を聞きます。東京の丸の内オフィスの街にも特例子会社があり、暑いさなかでもスーツを着て通っている話を聞きました。ちょっと調べてみたのですが、平成21年6月現在全国で265社でしたが、平成22年4月現在281社に増加。雇用達成率から見ると、従業員1000名以上の企業が達成していますが、それ以下は未達。特に気になることは従業員100名未満の会社が平成10年当時は雇用率1.8%以上でしたが年ごとに減少し平成21年には1.4%になってしまったことです。単純に考えると最近の日本経済がここにも反映しているように思へ、「つまずきのある人たちが地域で働くところが無くなってしまふのでは」と危機感を感じます。

自分の手で稼ぎ、得た物を自分の意思で使う。当人にとってとても自信に繋がることなのだと、そこで働いている人の顔から改めて感じています。

柳場 秀雄



## 「相模原自閉症支援センター」便り

ある人と、相談支援の話をしていた時「それじゃ、相模原にはあんまり困っている人はいないんだね」と言われたことがあります。その、ある人とは自閉症者の親だったのですが、もちろん本当に困っている人なんかいないと言っていたわけではありません。でも、その言葉が今でも心の中に残っています。そんなこともあり、最近頭の中で「相談」という言葉がぐるぐると堂々巡りすることがあります。

一寸乱暴な例えかもしれませんが、ある人が「ラーメンが食べたい」と相談に来た時に相談を受けた人はどう答えるでしょう？知っている店をいくつか答えるだけかもしれません。丁寧な人なら、どんな味が好みか？距離、値段は？店の雰囲気は？等々の情報（ニーズ）を聞き出すことでしょう。

これが仕事として福祉の相談を受ける立場だったらどうでしょう？このラーメンのように、サービスを求めて相談にいらっしゃる方も沢山いますし、サービスに繋ぐことさえ難しいこともあります。でも、相談とはそれだけではないはず。はたして、私（相模原自閉症支援センター）は当事者の方々から「何を求められているのだろう？」「相談っていったい何なのだろう？」こんなことが頭を巡っています。以前は、デパートやホテルにあるようなコンシェルジュのシステムが、相模原市の福祉の世界にあればいいと単純に考えていました。もちろん、障害福祉の情報や制度に長けた人が、本当に今必要なサービスに繋げてくれば、言うことないし、相談した側も幸せを感じることでしょう。現在、相模原市内の相談窓口は、各区にある障害福祉相談課以外にも指定相談支援事業所が18ヶ所存在して日々忙しく動き回っています。このように、サービスを利用したいだけの相談であれば、前述のようにあんまり困っている人はいない、ということになるのかもしれませんが、しかし、実際にはサービスとしての社会資源もまだ足りませんし、日々の相談や日常に追い立てられ、長期的で継続性のある相談支援には程遠いのが現状です。ですから、当事者のみならず支援者の困った感も根強く残っているのでしょう。

今でも「福祉コンシェルジュ」は絶対に必要だと思っています。ですから、地域生活に密着した身近で相談できる場所である、私たち相談支援事業所に携わる側の人間も、目の前にいる一人ひとりの当事者に最良の情報を提供できる、「福祉コンシェルジュ」を目指していかなければいけないと思います。でも、それだけではなく、「相談を掘り起こす作業」や「一貫した支援の中で相談を継続していく作業」が相談支援には必要なのだと思います。そのためには、圧倒的に人手が足りません。相模原市が中心になり、自立支援協議会や事業所等が同じ視点の中で役割分担をして、相模原市独自の相談支援システムを構築していけると良いと思います。

医学、疫学研究成果もあり、自閉症の病理学的解明も飛躍的に進んでいます。そのことで、わかってきたこともたくさんあるようです。しかし、そのことで今日の前にいらっしゃる当事者の方たちへの支援が変わるわけではありません。自閉症支援の先駆者である TEACCH プログラムでは支援者に求める資質として“スペシャリストではなくゼネラリストでありなさい”というものがあります。私たち職員も、今出来る、最善のことが出来るように、ゼネラリストとして幅広く研鑽すると同時に、ASDの人たちの理解と支援に対する、スペシャリストとしての役割も果たしていける人材になりたく思います。そのためにも、これからも変わらぬ応援どうぞよろしくお願いいたします。（西村三郎）

## ストッキングとタイツ募集！！

今度は、「ストピカ」作製の為に、穴があいてしまったり、古くなってもう使わなくなったストッキングや、タイツを募集します！

社会福祉法人風の谷 やまびこ工房

〒252-0244 相模原市中央区田名 7236-3 042-760-1033 担当：湯本まで

# 研修報告

今回の特集ページは職員が参加させて頂いた研修の報告です。2名の職員が代表して報告させて頂きます。人の支援に携わる上での姿勢や考え方について、また普段から接している利用者さんにも多い「てんかん」について学ばせて頂きました。

## 第42回関東地区知的障害関係施設職員研究大会に参加して

去る7月20日パシフィコ横浜で、第42回関東地区知的障害関係施設職員研究大会が開催されました。大会テーマは「自立を支援すること」ということで制度的、財政的制約が強まる中、利用者のより豊かな生活のために関東地区一都八県の施設で取り組まれている実践の報告が集まりました。

やまびこ工房からは「他害行動についての支援」、「コミック会話を利用した状況説明の支援」について発表をしましたが、同会場のテーマは「支援困難ケースへの対応」だったことで、他施設の様々な事例発表を聞くことができました。発表の内容は強いこだわり、緘黙（※）、他害行動、睡眠障害、触法など多岐にわたり、自閉症だけでなく精神障害（統合失調症）との重複障害を持つ方のケースなどもありました。

印象的だったのは、それぞれ困難な支援を行う中で「利用者の身になって考える」、「利用者に寄り添う」ということを、表現の違いはあれすべての発表者が共通に口にしていたことでした。大変な他害や自傷、緘黙などがある利用者を支援する際、支援者はその人に何か行動を身につけさせようとしたり、何かを教えようとしたりしがちですが、まず最初に支援者側が変わることで「利用者は何に困っているのか」ということを考えながら関係作りを行っていました。

特に精神障害を持つ、支援者の態度や表情に敏感な利用者に対しては、見せかけの共感はずぐ見破られてしまうことから、支援者同士がその人の障害や「なぜそのような行動をするのか」ということについて深く理解し、統一した対応を施設全体で確認していました。不安定な状態の利用者を受け入れ、障害を理解し、それを職員の共通の理解まで持っていくことは、本当に根気と時間、そして覚悟のいる大変な過程だったのではないのでしょうか。

また、栃木県にある入所施設「かりいほ」の「罪を犯した障害者への支援」の発表での、実際に刑期を終えた利用者を迎えに行ったときのエピソードでは、その人が罪を犯した、犯さないということではなく、いかに生きにくさの中で傷ついてきたか、ということへの配慮を強く感じました。罪を犯した人に何かを教える、ということではなく、その人の障害(生きにくさ)を理解しその支援を創造すること、時間を共に過ごしながらか丁寧な支援を続けることが「安心の創造」、「生きなおし」につながっていくというものでした。

これらの発表は自閉症者への支援についてはありませんが、支援に向かう態度として見習うべき点が多く同時にとても勇気づけられました。方法が違っていても、またある意味違う分野の支援であっても、様々なケースに触れることで支援のあり方を考え直すよい機会となった大会でした。(鹿野)

※) 言語能力を獲得しているにもかかわらず、何らかの心理的要因によって、一時期にあらゆる場面、あるいは特定の場面においてのみ、言葉を発しない状態。

## てんかん援助セミナー参加報告

自閉症とてんかんについてネットで調べてみたら自閉症者の約3割の方にてんかんが見られるという記事を見つけました。その割合の根拠はわかりませんが、やまびこ工房に通われている方にもその割合はあてはまります。ただ、実際に発作があったのは1回の方や10年以上発作が起きていない方が大半です。1回のみ発作があった方の様子をご家族から伺ってみますと不眠が続いたり、過度に不安になる状況下にあったようです。そのような状況になれば、体は何かしらの反応は示すかと思われますので、一概に自閉症とてんかんは結びつけることはできませんが、てんかん発作を起こしやすい性向にはあるようです。

8月2日、3日 日本てんかん協会 東京支部主催 てんかん援助セミナーがあり、参加する機会に恵まれました。400人強の方が参加し、青森、三重、大島・・・全国から支援者が集っていて、よりよい支援をしたいという思いが伝わってくる質問が続き、途切れることはありませんでした。

1日目はてんかんに関する基礎知識から実演を交えた症状、対処方法さらにてんかんを有する方がどう日常生活を送っていくかを支援する問題まで、さまざまな視点で講義と質疑応答がなされました。基礎講義は石崎朝世院長（王子クリニック）が担当し、実演を交えた症状や対処方法については川崎淳院長（川崎医院）が担当されました。2日目は薬に関する最新情報についての講義がありました。担当は井上有史院長（静岡てんかん・神経医療センター）でした。抗てんかん薬開発の歴史やてんかんの種別に対する薬の効能、さらに最近認可された薬の臨床結果について説明されました。新しい薬としてカバペンチン、トピラマート、ラモトリギン、レベチタセタムがあるが、効能は今までの薬とそれほど変わらないようで、副作用が少ないのが利点のようでした。投薬に関してはまずは1種類の薬からはじめ、効果がなければ、2、3種類併用するのが一般のようです。それでも、効果がなければ外科治療を検討するようです。

2日間のてんかんに関する講義で興味を引いたこととして、てんかんの症状（発作）に対し、実際にてんかんに分類されるものと心因性のもの（厳密に分類するとてんかんではない）があり、さらにてんかんと心因性の両方の原因を有する場合があります。投薬に関し、そのあたりの見極めをしないと悪い症状を促す可能性があるとのことでした。心因性の発作はストレスが原因で発生するものですが、実際鑑別はむずかしいようです。

最後に野沢和弘氏（毎日新聞論説委員）より、権利擁護に関する講演がありました。日本が諸外国に比して障害者の権利擁護に関し、遅れている点を指摘され、アフリカから4名の方が日本の障害者福祉について学びに来て、がっかりして帰ったエピソードを話されていました。さらに虐待の問題も取り上げられ、虐待について周りが気づいていても、見てみぬ振りをしてしまうことや問題として取り上げないことが虐待を深刻化してしまうことを指摘し、虐待を許す環境がよき支援者の育成を阻む原因にもなるとの見解でした。一方、成年後見制度についての事例をいくつか挙げられ、興味深いものがありました。愛知で末期がんに侵された母が知的障害者の息子のために成年後見制度を利用したいと訴え、生前に息子の将来を託す思いをビデオに残したのです。その方の後見人（実際は補佐<sup>㊦</sup>被後見人は選挙権はく奪されるが、補佐ならば保持できる）は大学を卒業したばかりの女性が担当になったそうです。ビデオに残された思いはきっと届いているはず。このことに関しては「ぱんだJ（No.2）」（2008年2月発行）という雑誌に詳しいです。てんかん発作の対処方法に関しては川崎先生の実演を交えた講義は入りやすいと思います。『てんかん発作 こうすればだいじょうぶ（発作と介助）DVD付き』川崎淳著 日本てんかん協会編があります。参考にしてください。（薬師丸）

**短期入所事業所「赤い屋根」～第2弾～**

前号では、今年4月にオープンした短期入所事業の概要についてお話しさせて頂きましたが、その中で『いずれは工房以外の利用者も視野に入れて…』と書きました。その後早速市内の女性が1名利用することになり今後も定期的に使って頂けるようです。まだお一人ですが、“地域に根ざした短期入所”に少し近づいた気がします。普段工房を利用されていない新規の方については、これまでよりも細かな事前情報や要望の把握、またサービス利用後には関係スタッフ皆での課題検討及び情報の共有に努めています。今後もこのような形で、徐々に地域開放できていけたらいいなと思っています。

さて今号は、「赤い屋根」の利用者さんの余暇支援について、男性棟、女性棟それぞれから紹介します。

**女性棟**

では、現在利用者と職員がほぼ1対1で接することが可能なので、泊まる回数を重ねるごとに、利用者と職員の関係作りも進み、余暇時間には個々の利用者に合わせて色々な取り組みを行っています。以下は、やまびこ工房でノートに絵を描いて要求を職員に伝えている利用者Aさんと短期入所担当の職員のやりとりです。

「ある日の、夕食前のちょっと空いた時間にAさんに何気なくメモ帳とペンを渡すと、ササッと女の子が二人並んでいる絵を描かれ、『こんなに上手に絵が描けるんだ!!』と、驚き、大きな発見をしました。

次の宿泊では、職員がその場で絵を描いてみると彼女は書き順まで同じに模倣して絵を描きました。文字を、漢字を、と宿泊回数を重ねる毎に職員とのやりとりも進んで行き、今ではその時刻になると彼女の方からテーブルに着かれ、『今日は何をするの?』といった感じで待っててくださいます(その都度驚いたり、妙に嬉しがっている職員の様子もきつと面白がっていたのかもしれない)。描き溜まったメモ用紙も束になり、絵合わせ・神経衰弱などカードの様に使い、展開を続けています。



Aさんの絵

職員の絵

ひよんなことから始まった夕食前の小さなやりとりですが、そうやって人と関わりをもって、気持ちや物事を共有できるという楽しさを感じてくれるととても嬉しいと思います。また、支援していく過程の中で「小さなきっかけ」を見つける目を職員はいつも持っていないと痛感しています。(中野)

このようなAさんの、職員と一緒に何かに取り組もうという明確な姿勢や行動を、日中支援の中でも生かし、新しい仕事への取り組みや社会のルールを伝える良い機会へ繋がられたら、と考えています。(山田)

**男性棟**

では、まずは「家庭的な雰囲気づくりを目指そう」という目標を掲げ、日中活動とは違った、憩いの場・安らぐ場となるような雰囲気作りに主眼を置いています。1日の利用者数が多いということもあり、こちらから何か積極的に働きかけるというよりも短期入所棟という『家』とは違った環境の中で、彼らがどう反応してどう過ごすか？を見守っているところです。

夕方やまびこ工房を出て、赤い屋根に入って、割り当てられた居室に入って、しかも他の部屋には違う利用者が居て……。自宅とは違った、『集団生活』の場の中で、ある方はリビングに出てきて職員の動きを見ていたり、おやつを食べていたり、またある方は居室でテレビを観ていたり、自宅から持ってきたCDやビデオを楽しんだり、横になっていたりとそれぞれ違った余暇の過ごし方をしています。

余暇の過ごし方が難しいと思える利用者も居れば、その時間を楽しんで過ごせる利用者も居ます。支援者側から見て好ましいと思われる余暇の過ごし方が彼らにとって本当に楽しめるものなのか……？は中々難しいテーマです。男性棟ではこの部分を考察中です。今のところ「赤い屋根をもう一度使ってもいいな」と思ってもらうことが目標です。

(上条)



社会福祉法人風の谷 平成21年度決算状況報告

(単位：千円)

(1) 資金収支計算書(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

区分	収入額	支出額	資金収支差額
経常活動による収支	219,613	169,712	49,901
施設整備等による収支	1,071	142,165	-141,094
財務活動による収支	147,780	10,380	137,400
合計	368,464	322,257	46,207

※前期末支払資金残高 161,015

(2) 事業活動資金収支計算書(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

区 分	本年度決算	前年度決算	増 減
事業活動収支差額	59,931	29,555	30,376
事業活動外収支差額	261	182	79
特別収支差額	-24,090	8,561	-32,651
当期活動収支差額	36,103	38,300	-2,197
前期末繰越活動収支差額	156,698	118,398	38,300
当期末繰越活動収支差額	192,802	156,698	36,103
その他の積立金取崩額	33,000	0	33,000
その他の積立金積立額	20,000	0	20,000
次期繰越活動収支差額	205,802	156,698	49,103

(3) 貸借対照表(平成22年3月31日現在)

資産の部				負債の部			
勘定科目	当年度	前年度	増減	勘定科目	当年度	前年度	増減
流動資産	178,495	140,309	38,186	流動負債	8,685	16,705	-8,020
固定資産	453,339	357,526	95,813	固定負債	192,119	97,761	94,358
				基本金	55,912	55,912	0
				国庫補助金等特別積立金	111,716	100,158	11,558
				その他の積立金	57,600	70,600	-13,000
				次期繰越活動収支差額	205,802	156,699	49,103
資産の部合計	631,834	497,835	133,999	負債純資産合計	631,834	497,835	133,999

(4) 財産目録(平成22年3月31日現在)

区 分	金 額
資産の部	631,834
負債の部	200,804
差引純資産合計	431,030

# 後援会のページ



やまびこ工房家族会の皆様、職員の皆様、今年の夏は記録的な猛暑となり、各地で熱中症患者が出ましたが、皆様は猛烈な夏を無事に乗り切られたことと思います。

さて、風の谷後援会の活動も、皆様のご協力を得て、地域交流バザー、納涼花火見物も無事に終了しました。今後は、ジャム作り、資源回収、後援会会員の更新依頼等の行事が予定されております。皆様の積極的なご協力を期待しております。

風の谷で今春から始めた短期入所事業も順調に進んでいるようです。この事業の今後一層の充実に向け、職員の皆様も活動中です。わが息子も、月に1度のペースで、2泊3日の短期入所を経験しております。利用当初は、宿泊を嫌がっていましたが、最近では、だいぶ慣れたのか、宿泊時の楽しみが出来たのか「赤い屋根に泊まります」と言って、しっかりとスケジュールに組み込んでいる様子です。このような経験の積み重ねが将来のグループホーム、ケアホームでの生活への地ならしになればと思います。

気候も最近では、落ち着き、過ごし易くなりました。スポーツや旅行に最適な季節となります。皆様も充実した秋を楽しんで下さい。

風の谷後援会 会長 鈴木 秀美



## 【更新・個人】平成22年6月18日～平成22年10月1日（敬称略）

（相模原市内）

内田まゆみ 岩瀬圭子 川勝登美子 小林義明 佐藤清一 鹿野徹子 篠崎繁雄 高橋清 高橋ツギ 長谷川美好 原徹 百田紀久男 森合貞雄 山口彰一

（その他の地域）

稲垣久和（品川区） 村上信治（熊本県） 成瀬富子（平塚市） 石渡和実（横浜市） 中島敏晴（札幌市）  
山本昭子（町田市） 岩崎修司（小平市） 合津紀子（上田市） 奥平瑞穂（伊勢原市） 上野悟（川崎市）  
日野朝子 日野資純 和田真理子（静岡市） 村岡嘉紀（大和市） 塚本寿子（福井県） 下田浄（所沢市）  
柳井晶子（城山町） 守屋恵美子（堺市） 宮手敏雄 源新和子（盛岡市） 松岡清市（青森県） 清水洋子（横浜市）  
内田照雄 佐藤辰男（厚木市） 佐々木継生 上城和子（北九州市）

## 【更新・団体】

（有）伸和トラスト ワーカーズコープ・キュービック理事長：阿部よし子

## 【新規】

長谷川美好（相模原市）

## 【ご寄付・ご協力】

新宿自治会 新宿小学校 （有）伸和トラスト ボランティアサークルきずな 依知の会  
ワーカーズコープ・キュービック やまびこ工房家族会

## 風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的としております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

**一般会員 一口：3,000円/年間 団体会員 一口：10,000円**

※一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

## お問い合わせ先

〒252-0244 『風の谷後援会』事務局  
相模原市中央区田名 7236-3 社会福祉法人「風の谷」内 TEL：042-760-1033 FAX：042-760-7115  
郵便振込先 口座番号 00230-1-15345